

2019年日本切手発行状況

本年は表1の様に消費税増税に伴う普通切手の発行、小型シートの3件発行増等がありながら、発行51件、種類数548、購入必要金額43,848円と乱発、濫造が少し是正された。しかし、1日1種の切手を発行しても追いつかない数のとんでもない発行状態が続いていることには変わらない(2018年は53件発行、623種発行、購入必要金額49,016円)。日本切手は1万種超え

世界に目を向けて見ても年間200種以上発行した国はフランスに8年程度見られる以外、それ以上発行した国を見つけれないようだ。わが国は他の国に見られない500種以上の切手の発行を5年も続けている。お蔭で我国は2019年に切手を1万種以上発行した最初の国になったようだ。(軍事、在外、占領地切手等を除外)

分野別、内容別発行状況

2019年切手の発行目的別に整理するとそれぞれ表2、図1のようになる。グリーンング切手、シリーズ切手は件数、種類、発行件数の順に割合が増えるのに対し、記念切手、毎

表2 発行目的別切手の状況

発行目的	件		種		万枚	
グリーンング切手	15	29%	192	35%	53000	51%
シリーズ切手	15	29%	210	38%	35715	34%
寄付金付切手	2	4%	20	4%	2000	2%
記念切手	10	20%	79	14%	7300	7%
年賀切手	3	6%	6	1%	2704	3%
普通切手	2	4%	10	2%	0	0%
毎年発行	4	8%	31	6%	3600	3%
総計	51	100%	548	100%	104319	100%

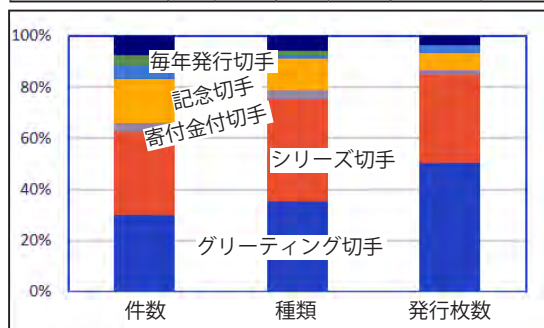


図1 発行目的別切手の割合

表1 2019年発行切手一覧

	発行目的	通称	種	万枚	切離
1	記念切手	日本フィリピン外交100	10	500	目打
2	記念切手	近代測量150年	10	500	目打
3	記念切手	ILO創設100周年	10	500	目打
4	記念切手	ラグビーワールドカップ	10	600	目打
5	記念切手	日本芸術院創設100	10	500	目打
6	記念切手	日本ハンガリー外交150	10	500	目打
7	記念切手	日本オーストリア友好150	10	700	目打
8	記念切手	G20大阪サミット	5	500	目打
9	記念切手	天皇即位30年記念	2	1000	目打
10	記念切手	天皇即位記念	2	2000	目打
11	寄付金付切手	第1回東京市・ハラ	10	1000	目打
12	寄付金付切手	第2回東京市・ハラ	8	1000	目打
13	毎年発行	切手趣味週間	10	700	目打
14	毎年発行	第74回国体	10	500	目打
15	毎年発行	国際文通週間	6	1900	目打
16	毎年発行	国土緑化	5	500	目打
17	年賀切手	年賀令和2年用	4	2700	目打
18	年賀切手	年賀切手招き猫	2	2	目打
19	年賀切手	年賀特別	2	2	目打
20	普通切手	普通切手	6	0	目打
21	普通切手	慶弔用切手	4	0	目打
22	シリーズ切手	旅切手シリーズ5集	25	3015	シール
23	シリーズ切手	伝統色シリーズ2集	20	3500	シール
24	シリーズ切手	動物シリーズ第2集	20	1900	シール
25	シリーズ切手	伝統文化シリーズ2集	20	3000	シール
26	シリーズ切手	森の贈り物シリーズ3集	20	3500	シール
27	シリーズ切手	楽器シリーズ2集	15	2500	シール
28	シリーズ切手	天体シリーズ2集	10	3000	シール
29	シリーズ切手	もてなし花シリーズ12集	10	4300	シール
30	シリーズ切手	天然記念物シリーズ4集	10	1000	シール
31	シリーズ切手	海の生き物シリーズ3集	10	2300	シール
32	シリーズ切手	世界遺産シリーズ12集	10	500	目打
33	シリーズ切手	ふみの日	10	1900	シール
34	シリーズ切手	日本夜景シリーズ6集	10	800	目打
35	シリーズ切手	伝統色シリーズ3集	10	1500	シール
36	シリーズ切手	絵本世界シリーズ2集	10	3000	シール
37	グリーンング切手	ぼすくまと仲間たち	23	3600	シール
38	グリーンング切手	リサとガスバール	20	3000	シール
39	グリーンング切手	スイーツ	20	3000	シール
40	グリーンング切手	ミッフィー	20	4600	シール
41	グリーンング切手	秋のグリーンング切手	20	6000	シール
42	グリーンング切手	冬のグリーンング	20	3000	シール
43	グリーンング切手	星の王子さま	15	3000	シール
44	グリーンング切手	ライフ・花	12	3100	シール
45	グリーンング切手	春のグリーンング	10	3000	シール
46	グリーンング切手	夏のグリーンング	10	3000	シール
47	グリーンング切手	伝統色シリーズ3集	10	3000	シール
48	グリーンング切手	ハッピーグリーンング	6	3800	シール
49	グリーンング切手	シンプル	3	8000	シール
50	グリーンング切手	ハチメル小型シート	2	400	目打
51	グリーンング切手	グリ・シンプル82円	1	2500	シール

年発行切手と購入したいと感じる目打切手は件数、種類、発行枚数と割合が逆に少なくなり、もはや、切手発行がグリーティング切手、シリーズ切手のシール切手中心になされていることが判る。

デザイン意匠の変化

まず、年賀切手のデザインの対象が変わった。1953年の三春駒にはじまり、9年間を除く58年間続いた干支の郷土玩具のデザインを昨年で終わらせ、2019年の年賀切手はおもちゃ絵画家の川崎巨泉の描いた5000点の絵を収めて116冊からなる画帖から選ばれ、現存の郷土玩具でないものも切手になりそうである（大阪府立中之島図書館・人魚洞文庫）。また、寄付金付切手は玩具ではなく干支と縁起物を新たにデザインした切手になった。



三春駒
1953年



人魚洞文庫
子の玩具



干支と縁起物の
デザイン

また、スポーツ関連切手のデザインが過去のものとは異なることが際立っている。オリンピック、ラグビーワールドカップ切手に競技場が全く描かれてなく、エンブレム、マスコット等切手ばかりであり、前東京大会の競技種目20種の切手と比べて、スポーツ切手としての魅力に欠けることを感じる。尤も、これはFIFAサッカー大会等の切手にも言えて、なぜか考えてしまう。

更に、デザインの描き方が写真を基にするものから手書きを感じさせるものが多くなったと感じさせる切手が多くなった。



競技シーンが無いスポーツ大会切手



国体、フィンランド、オーストリア外交関係の周年切手、国体切手はともかく、外交、国際関係事項の切手にもデザインの変化がみられる。

外国製切手が半数を超え

印刷はオフセットが発行枚数の95%をしめて、発行枚数の55%が外国の印刷会社で印刷されていた。その中で、目打切手が外国で印刷される割合が増えて、目打切手の80%になってしまっていることに驚かされた。外国製切手はシール切手と思い込んでいたが、今後はこの割合の変化と、凸版印刷が目打切手を印刷する割合にも注意していきたい。



外国製切手330種の内の3種

Phil@poste(仏) カルトール社(仏) エンスケデ社(蘭)

新規発行と発行中止

2019年に今後の発行継続があるのか、また、なぜか発行が中断した切手が気になった。販売不振に悩む暑中見舞いハガキの販売促進策か、抽選の景品であり、窓口でも購入できる「かもめーる小型シート」の発行継続である。小型シートの発行継続より、郵便局員への販売促進ノルマ等の問題が生じたりしていると聞く「かもめーる葉書」自体の存続が問



景品と147円で販売された小型シート



景品と1000円で販売された特別年賀小型シートである。もう1件、「特別お年玉切手シート」が発行された。これも年賀葉書の景品（シリアル番号印字）と窓口販売の小型シートである。発行の発表が12月9日、ここで初めて抽選が2度あることが発表された。どれだけの人がこの発行を知りえたのだろうか。しかも、2度目の抽選は5月20日と記憶困難な設定、もっとも下6桁の当選番号は100万本に1本、普通年賀の1等景品30万円に該当、この発行の意味が理解しがたい。販売の1万枚も10月に郵便会社から「ご好評につき、通信販売の期間を延長するほか、一部の中央郵便局でも販売します。（2019年10月21日を2020年3月31日に延長）」という発表がされた。反対に、5年で発行をやめた切手が存在する。海外向け郵便に使用される差額用切手である。海外年賀用切手（差額用）でスタートし、海外グリーティング（差額用）として料額もデザインも統一されない切手であった。今後は海外郵便利用者の立場を考え

表3 料金改定時の切手発行の対応

増税、値上げの内容	葉書料金		封書料金	
	普通切手	特殊切手	普通切手	特殊切手
1989年4月1日に消費税3%実施	40 → 41		60 → 62	
旧料金切手最後の発行日	****	1988/10/14	****	3月24日
新料金切手初発行日	3月24日	7月14日	3月24日	4月1日
1994年1月24日郵便料金値上げ	41 → 50		62 → 80	
旧料金切手最後の発行日	****	1993/9/16	****	1993/12/10
新料金切手初発行日	1月13日	1月28日	1月13日	1月28日
2014年4月1日に消費税8%に	50 → 52		80 → 82	
旧料金切手最後の発行日	****	1月16日	****	1月16日
新料金切手初発行日	3月3日	4月3日	3月3日	4月1日
2017年6月1日葉書値上げ62円に	52 → 62			
旧料金切手最後の発行日	****	4月14日		
新料金切手初発行日	5月15日	5月26日		
2019年10月1日に消費税10%に	62 → 63		82 → 84	
旧料金切手最後の発行日	****	7月30日	****	7月30日
新料金切手初発行日	8月20日	8月20日	8月20日	8月20日



発行開始5年で消えた「リング」差額用切手
6、7、16円普通切手の発行を検討すべきであろう。

消費税増税の準備

8月以降発行された全ての切手が消費税増税額を含む料額で発行された。2ヶ月前から特殊切手14件171種、3200万枚が新料額で発行されたのである。ふと、過去の増税の時はどうだったか気になって、整理したのが表3である。今回の2ヶ月前からの準備の完璧さ？が際立っている。消費税3%時は1週間前に新料額の普通切手が発行され、増税その日になんと新料額の初めての記念切手が発行されている。この切手を含め2種の切手は新料額でも18日後に限定局販売とはいえ発行された。



3/16 発行 2700万枚
4/18 発行 300万枚
3/24 発行 2500万枚
4/18 発行 500万枚

他の変更時期を見ても、今回ほどの完璧？の準備はなく、何の目的のためであろうかと考えてしまうし、利用者の立場を考えられているのであろうか。旧料額切手の売れ残りを極力なくすためではなかったのか。新料額切手の準備という点からは、過去に問題が生じたのは消費税3%導入時生じた程度だと記憶している。どれだけの方が誤って新料額切手を購入してしまったであろうか。それ以前に増税前に増税を負担させる切手を171種も発行すること自体をどう受け止めてこの準備をしたのであろうか。

（編集子）